

# Content Engine トランザクション ログ分析について

## 目次

[概要](#)

[はじめに](#)

[表記法](#)

[前提条件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[標準的なログ コード](#)

[TCP HIT](#)

[TCP MISS](#)

[TCP REFRESH HIT](#)

[TCP REF FAIL HIT](#)

[TCP REFRESH MISS](#)

[TCP CLIENT REFRESH](#)

[TCP IMS HIT](#)

[TCP IMS MISS](#)

[TCP SWAPFAIL](#)

[TCP DENIED](#)

[UDP](#)

[UDP HIT](#)

[UDP HIT OBJ](#)

[UDP MISS](#)

[UDP DENIED](#)

[UDP INVALID](#)

[UDP RELOADING](#)

[ERR](#)

[階層データ コード](#)

[DIRECT](#)

[FIREWALL IP DIRECT](#)

[FIRST PARENT MISS](#)

[FIRST UP PARENT](#)

[LOCAL IP DIRECT](#)

[SIBLING HIT](#)

[NO DIRECT FAIL](#)

[NO PARENT DIRECT](#)

[PARENT HIT](#)

[SINGLE PARENT](#)

[SOURCE FASTEST](#)

[PARENT\\_UDP\\_HIT\\_OBJ](#)  
[SIBLING\\_UDP\\_HIT\\_OBJ](#)  
[PASSTHROUGH\\_PARENT](#)  
[SSL\\_PARENT\\_MISS](#)  
[DEFAULT\\_PARENT](#)  
[ROUNDROBIN\\_PARENT](#)  
[CLOSEST\\_PARENT\\_MISS](#)  
[CLOSEST\\_DIRECT](#)  
[関連情報](#)

## [概要](#)

このドキュメントでは、Cisco Content Engine で show transaction-log entries 255 コマンドを発行した後に表示されるコードについて説明します。これらのログ コードは Squid Log Format で記述され、各ログは、Squid のキャッシュ ログで使用されるどのようなログ ファイル解析ツールでも解析できます。

## [はじめに](#)

### [表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

### [前提条件](#)

この文書は、Squid Log Format に関する十分な知識のある読者を対象としています。一般的なログ形式とは違って、Squid のネイティブ ログ形式は Content Engine 統計情報を考慮して設計されました。この形式は Squid によって、また ContentFlow、InfoLibria および NetContent のような商業 Content Engine によって、だけでなく、生成することができます。詳細については、[Squid Web プロキシ コンテンツ](#)を参照して下さい。

### [使用するコンポーネント](#)

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco Content Engine ソフトウェア ( 以前の Cache Engine ソフトウェア ) のすべてのリリース
- Cisco Content Engine ( 以前の Cache Engine ソフトウェア ) のすべてのバージョン

## [標準的なログ コード](#)

この項では、標準的なログ コードについて説明します。

### [TCP\\_HIT](#)

要求されたオブジェクトの有効なコピーは Content Engine にありました。

## TCP\_MISS

要求されたオブジェクトは Content Engine にありませんでした。

## TCP\_REFRESH\_HIT

オブジェクトは Content Engine にありましたが、古かったです ( 古い )。 If-Modified-Since 要求はなされ、<sup>304</sup> 応答は受け取られました。

## TCP\_REF\_FAIL\_HIT

オブジェクトは Content Engine にありましたが、古かったです。オブジェクトを検証する要求が失敗したため、古いオブジェクトが返されました。

## TCP\_REFRESH\_MISS

オブジェクトは Content Engine にありましたが、古かったです。 If-Modified-Since 要求はなされ、応答は新しいコンテンツが含まれていました。

## TCP\_CLIENT\_REFRESH

クライアントは、no-cache のための pragma で要求を発行しました。

## TCP\_IMS\_HIT

クライアントは If-Modified-Since 要求を発行し、オブジェクトは Content Engine にまだ新しいあり。

## TCP\_IMS\_MISS

クライアントは失効したオブジェクトのための If-Modified-Since 要求を発行しました。

## TCP\_SWAPFAIL

オブジェクトは Content Engine にあると信じられましたアクセスできませんでした。

## TCP\_DENIED

この要求に関するアクセスが拒否されました。

## UDP

このコードは、Internet Control Protocol ( ICP ) ポート ( 3130 ) に対する要求を指します。

## UDP\_HIT

要求されたオブジェクトの有効なコピーは Content Engine にありました。

## UDP\_HIT\_OBJ

要求されたオブジェクトの有効なコピーは Content Engine にありましたが、オブジェクト データは十分に小さかったです User Datagram Protocol ( UDP; ユーザ データグラム プロトコル ) リプライパケットで送信 されるには。 そのため、Transmission Control Protocol ( TCP; 伝送制御 プロトコル ) 要求を節約できます。

## UDP\_MISS

要求されたオブジェクトは Content Engine にありませんでした。

## UDP\_DENIED

この要求に関するアクセスが拒否されました。

## UDP\_INVALID

無効な要求が受信されました。

## UDP\_RELOADING

ICP 要求は Content Engine がメタデータをリロードすることを使用中であるので拒否されました。

## ERR

このコードは、HTTP 要求に関するさまざまな種類のエラーを指します。

## 階層データ コード

この項では、階層データ コードについて説明します。

## DIRECT

オブジェクトは、元のサーバから要求されています。

## FIREWALL\_IP\_DIRECT

元のホスト IP アドレスがファイアウォール内のものであるため、オブジェクトは元のサーバから要求されています。

## FIRST\_PARENT\_MISS

オブジェクトはファースト重くされたラウンドトリップ時間の親 Content Engine から要求されました。

## FIRST\_UP\_PARENT

オブジェクトは、リスト内で最初に利用可能な親から要求されています。

## LOCAL\_IP\_DIRECT

元のホスト IP アドレスが local\_ip リストに一致したため、オブジェクトは元のサーバから要求されています。

## SIBLING\_HIT

オブジェクトは UDP\_HIT と答えた兄弟 Content Engine から要求されました。

## NO\_DIRECT\_FAIL

オブジェクトはファイアウォールの制限が理由で要求できなかったし親 Content Engine は利用できませんでした。

## NO\_PARENT\_DIRECT

オブジェクトは起源サーバから親 Content Engine が URL のためにないので要求されました。

## PARENT\_HIT

オブジェクトは UDP\_HIT と答えた親 Content Engine から要求されました。

## SINGLE\_PARENT

オブジェクトはこの URL のために適切な唯一の親 Content Engine から要求されました。

## SOURCE\_FASTEST

source\_ping 応答が先に到着したため、オブジェクトは元のサーバから要求されています。

## PARENT\_UDP\_HIT\_OBJ

オブジェクトは親 Content Engine からの UDP\_HIT\_OBJ 応答で受け取られました。

## SIBLING\_UDP\_HIT\_OBJ

オブジェクトは兄弟 Content Engine からの UDP\_HIT\_OBJ 応答で受け取られました。

## PASSTHROUGH\_PARENT

passthrough\_proxy 設定オプションで定義されている隣接デバイスまたはプロキシが使用されました。

## SSL\_PARENT\_MISS

ssl\_proxy 設定オプションで定義されている隣接デバイスまたはプロキシが使用されました。

## [DEFAULT\\_PARENT](#)

ICP クエリはあらゆる親 Content Engine に送られませんでした。設定ファイルでデフォルトに指定されているため、この親が選択されました。

## [ROUNDROBIN\\_PARENT](#)

ICP クエリはあらゆる親 Content Engine から受信されませんでした。設定ファイルでデフォルトに指定され、ラウンドロビン使用カウントが最低であったため、この親が選択されました。

## [CLOSEST\\_PARENT\\_MISS](#)

元のサーバへの最も低い Round-Trip Time ( RTT; ラウンドトリップ時間 ) の測定値が含まれていたため、この親が選択されました。これが表示されるのは、設定ファイルで query\_icmp on オプションが設定されている場合のみです。

## [CLOSEST\\_DIRECT](#)

オブジェクトは起源サーバからこの Content Engine がより下部の RTT をの親 Content Engine 測定したので直接取出されました。

## [関連情報](#)

- [Content Engine に関する FAQ](#)
- [Cisco 500 シリーズ Content Engine サポートページ](#)
- [Content Engine の最適化](#)
- [コンテンツ ネットワーキング Software Center \( \[登録ユーザ専用\]\(#\) \)](#)
- [コンテンツ ネットワーキング デバイス ハードウェアに関するサポート \( 英語 \)](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)